

校友会誌



平成22年3月9日

発行

名古屋工学院専門学校校友会

名古屋市熱田区神宮四丁目 7-21

http://www.denpa.ac.jp/

<第51号>

『希望の星は輝く』

会長 倉田 豊行

中国の三国志で有名な諸葛孔明に纏わる故事で【伏竜・鳳雛】(ふくりよう・ほうすう)という言葉があります。三国時代の蜀の劉備の質問に対して司馬徽(しばき)は「今、伏竜・鳳雛と呼ばれる人物がいま

す。それは諸葛孔明と龐士元(ほうしげん)の二人です」と答えました。この言葉の意味は、潜んでいる竜と、これから鳳凰となる雛ということで、まだ、世間に出ていない優れた人物のことです。皆様も、この言葉のように、将来は大人物となり、世の中

になくしてはならない、お一人おひとりとなつていただきたいものと思います。

また、そうなることを熱望しております。劉備玄德と諸葛孔明は、【水魚の交わり】や【三顧の礼】の故事のとおり、信頼関係で結ばれています。学生時代の友との関わりもこのようでありたいものと思います。

百年に一度の危機を克服して、V字回復するためにも、企業成長(ICT化による新たな成長エンジンの整備)と経費削減(ICT化による経営体力の増強支援)が今後、不可欠なものとなって参ります。総務省(MIC)が推進して参ります次世代ネットワーク(NGN)さらに

2007年に設立され、2009年に第2回総会が行われた新世代ネットワーク(NGN)推進フォーラムなどICT(情報通信技術)の分野でも一段と充実したものとなって参りました。

アメリカの心理学者ロロ・メイの著作である【失われし自我を求めて】の題号のとおり、【自我の確立】をし、百年に一度の不況のときこそ、絶好の好機と捉え、【暗闇が深ければ深いほど希望の星は輝く】【良き目標は、良き人間を創る】との言葉通り、各自が【希望の星】と【日々の明確な目標】をもって邁進され、社会に見事な実証を示されんことを、切に願っております。

『明見萬里』の視点より

校長 小川 明治

遠くから見ないと全体を捉えきれない景色があります。そして、遠くを見ないと今なすべきことがわからない時局もあります。

一昨年に表面化した金融危機以降、世界経済は厳しい局面にいたりました。今日では、マクロ経済指数のなかに少しずつ改善の兆しが見られ、景気の底入れ期待が広がってきたともいわれますが、雇用情勢や個人消費といった基礎の回復には、デフレ圧力が内在し、円高が長期化すれば産業の空洞化が再び進み、依然としてわが国経済社会の先行きには不透明

感が強く、起伏の激しい歴史の変遷のなかにあります。このような希有な時こそ逆に学ぶべきことは多いと言えましょう。

産業界では新エネルギーや環境問題をはじめ各分野において、積極的なイノベーションの役割が増大し続けています。天然資源にも恵まれず、ものづくりを経済成長の糧としているわが国は、これまで勤勉な働き方と旺盛な研究活動により、高い品質とコスト削減努力をもとに国際競争力あるノウハウを蓄積してきました。わが国を取り巻く環境が変化するなかでも、知の創造活動を活性化することは堅持しなければなりません。つまり、人材育成であります。

中国の古書『礼記』のなかに、「教学相

長ずるなり」とあります。教えることと学ぶことが相俟って、お互いに研鑽しながら共に向上するという教育の深奥にもふれた文言であります。

時代の求める人材育成は本校の責務であり、人材は財産であります。個々人の自己啓発意欲を喚起し、組織的な能力開発活動を展開するという教育理念を具現化するビジョン構築が、長期的展望のなかに必要であると認識する次第であります。

本校の教職員、校友会の皆さんは建学の精神の継承者であり、学生の皆さんも然りであります。学びの深化、学びの有りようは、私たちに必要な大きな成長の活路を照らしてくれるものと確信します。

『東京砂漠より』

電子情報研究科

平成20年3月卒業 及川 智子

全国に拠点のあるKDDIテクノに就職が決まり、人事担当の人から配属先の希望を受け付ける、と連絡があった。就職活動中は実家を出ることが考えられず、地元企業への就職を目指していた私だったが、その時になって思い直した。これは自立するいい機会かもしれない。と、私は運を天に（というか会社社に）任せ辞令を待った。とは言つものの、実のところ半分程は愛知に配属になる事を期待していた。独り暮らしにはやはり不安があったし、生まれてからずっと続いていた愛知での暮らしが変わってしまうのが、どこか想像出来なかった。

ところがあっさりと期待は裏切られ、私は卒業前に東京に配属が決まり、生涯初の引っ越し、そして独り暮らしをする事になった。半月程東京で研修を行い、その最終日に転居先のアパートが通知された。引越の為に休暇はわずか三日間、東京での新生活は慌ただしく始まった。

私の仕事は通信工事の手配である。想像していたのとは違い、学生時代取った資格は活用できる場がなく、学習した事も実際に扱う装置の性能や、回線への導入方法等、知識があっても、現場では太刀打ちできないことの方が多かった。け

れど、通信技術の基礎知識がある。という事は業務を理解する上で強みになった。また、社員に取得が義務つけられていた必須資格を既に取得していた為、資格のセミナー等で時間が削られる事もほとんどなかった。これはとても有り難かった。私は同期の中で誰よりも早く業務に携わる事が出来た。

一方、独り暮らしは思っていた程苦労はなかった。一番気がかりだった食事も、自炊には慣れ、最終手段である外食の場所にも幸い困らなかった。好きな食材で料理を作ったり、出かけた先で美味しい店を発見するのも今は休日の楽しみだ。困つたのは、昔からの悪癖だった夜更かしに拍車がかかった事。他にも風邪で寝込んだ時や、部屋に痴漢が入った時は大変だった。（丁寧にお願い頂きました。）独り暮らしは自由で気楽だ。けれど自己管理の手伝いは誰もしてくれない。それだけはこれからも気を付けたい。

あつという間に時間が経ち、東京での年越しも2回目になる。夏には先輩ができ、更に上司の昇進に伴い、チームのとりまとめをする立場になった。責任の重い業務が増え、日々忙殺されている。しかし頼りにされるのは、新人の頃に比べ自分の成長が実感できてやはり嬉しい。正月は帰省する予定なので、家族や友人に会って報告するのを楽しみに頑張りたいと思う。

「過去を振り返って今思うこと」

メディア学科 石黒 誠



「カセットテープレコーダー」という名前を聞いて、どんなものか思い描けない世代が、確実に増えている昨今。

音楽と言えばカセットという時代のど真ん中で過ごした私は、初めて家にデッキが届いた日の嬉しさを鮮明に覚えてい

る。今や「エア・チェック」という言葉

を聞いたことすらない若者もいるだろう。昔は好みの曲がラジオから流れるとタイミングを計ってボタンを押して録音をしたものだ。テレビ番組を録音する時などは一苦労であった。何せ周囲の全ての音を拾ってしまうのである。待ちに待った曲を息を潜めて録音しているまさにその時に来客があったり、電話の音が鳴り響いたりした日には泣くに泣けない。

若かりし頃の努力の証のような古いカセットテープが、どうしても処分できない気持ちなど、別世界の出来事に思われるかもしれない。

そんな折、久しぶりに会った同世代の仲間とカラオケに行く機会があり、当時

の音楽の世界に改めて浸ることが出来た。音楽一つでその頃の気持ちが鮮やかに蘇える。そして仲間と共有できる。きつと

当時は皆が同じような音楽文化を根底に持っていた。不便さ極まりない楽しみ方しか出来なかったが、だからこそ共有できたことは少なかつたと思う。

どんな曲も簡単に手に入り、各自が好きなように好きな媒体で楽しめる現代。そばにいても、違う曲を個別に聴くスタイル。ヒット曲を仲間が揃いも揃って口ずさめるという、私達の世代が当たり前に感じることが、いずれ出来なくなる時代も来るのかもかもしれないと、寂しく思った。

不便さの中にこそ可能性が隠れている。ということもきつと少なくない。便利さと引き換えにかけがえのないものを失っていないか、そろそろ立ち止まって考えてみるのも、悪くなさそうだ。



平成二十年度

校友会事業経過報告

年月日 事業内容
20・4・17 卒業生による

在校生への講話

小出郁夫氏

(S55年電子計算機科卒)

20・4・20 校友会大阪支部総会 開催

20・5・27 校友会常任役員会 開催

20・6・12 校友会常任役員会 開催

20・6・21 校友会支部長総会 開催

功労賞3名 山口勇氏
三浦耕一氏 内山長久氏

20・7・18 校友会石川支部総会 開催

20・8・1 校友会メールマガジン

【かもめル】配信

20・10・8 校友会常任役員会 開催

20・10・14 校友会メールマガジン

【かもめル】配信

20・10・25 卒業生による

在校生への講話

池戸喜紀氏、奥村崇史氏、
小幡慎也氏、加賀隆晃氏、
下村優太氏

(H21年電気工学研究科卒)

20・11・14 校友会奨学金に奨学金貸与

20・11・14 校友会東京支部総会 開催

21・1・24 校友会沖縄支部総会 開催

21・2・18 卒業生による

在校生への講話

新川美浩氏

(S56年電波通信学科卒)

21・3・4 校友会常任役員会 開催

21・3・9 校友会賞受賞者決定・授与

21・3・17 校友会誌『かもめ』
第50号発刊

21・3・17 校友会誌『かもめ』
(65通)発送

各支部長

および支部連絡先

東京支部長 新川 美浩

五十六年第一部電波通信学科卒

支部担当 池戸 博行

支部担当 小野 幸宏

大阪支部長 田邊 和哉

四十七年第一部電子計算機科卒

支部担当 岩井 敬典

富山支部長 中島 光憲

四十九年第一部テレビ技術科卒

支部担当 土肥 和紀

石川支部長 坂本 守

五十一年第一部電子工学科卒

支部担当 石黒 誠

福井支部長 山崎 利治

四十年第一部電気通信科卒

(活動休止中)

支部担当 松岡 昇

三重支部長 瀬野 喜久

三十七年第一部電気通信科卒

支部担当 森下 啓司

四国支部長 松浦 正昭

三十四年第一部本科卒

支部担当 高須 真人

沖繩支部長 上原 盛善

四十九年第一部電波通信研究科卒

支部担当 堀内 豊

支部担当連絡先

名古屋工学院専門学校

校友会各支部担当者

電話 052-871-1311(代)

二十八期校友会常任役員

会長 倉田 豊行

副会長 岩井 敬典

副会長 池戸 博行

書記 石黒 英一

書記 高須 真人

幹事長 坂田 和義

幹事 村岡 好久

幹事 井東 秀樹

幹事 根岸 雅巳

幹事 平岩 清

幹事 石黒 誠

幹事 加藤 穰治

幹事 杉村 博行

幹事 木下 幸弘

幹事 松岡 昇
幹事 神谷 裕之
会計監事 田中 和彦
会計監事 井藤 和弘
相談役 小川 明治
相談役 市川 優
参与 小川 孝

結婚おめでとう

1じやいます



昨年度、「祝宴を挙げられました卒業生を紹介させていただきます。心からお祝い申し上げます。

井上 明洋さん

(平成10年3月・電気工科卒)

平成21年5月24日挙式・名古屋

浦山 栄樹さん

(平成15年3月・電気工学研究科卒)

平成21年11月22日挙式・名古屋

稲嶺 利由さん

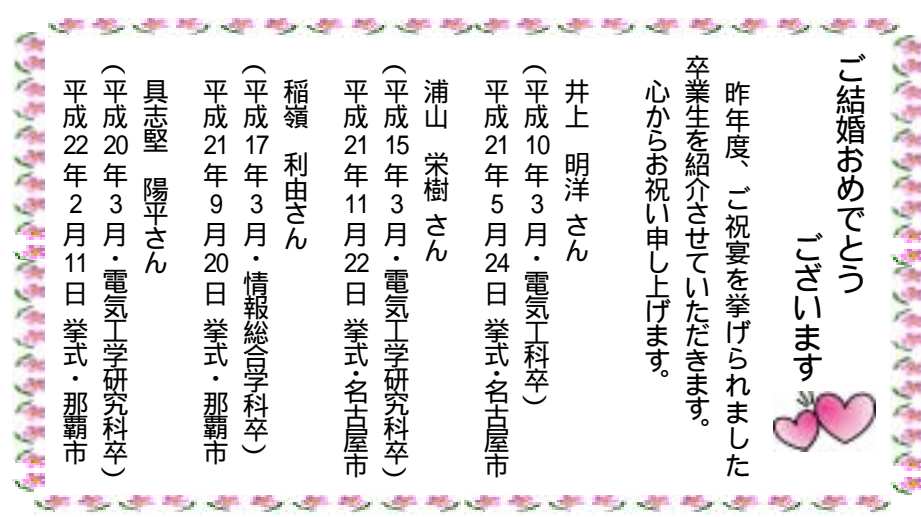
(平成17年3月・情報総合学科卒)

平成21年9月20日挙式・那覇市

具志堅 陽平さん

(平成20年3月・電気工学研究科卒)

平成22年2月11日挙式・那覇市



平成20年度 校友会収支決算書(一般会計の部)

収入の部 合計金額 23,954,074 円
 支出の部 合計金額 23,954,074 円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	18,253,300	会誌発行費	273,123
校友会活動費	1,620,000	特別会計	0
総鑑発刊特別会計より	4,057,467	支部結成維持費	977,400
預金利息	23,307	講演会費	106,620
		援助費	25,000
		慶弔費	4,178
		備品消耗品費	0
		校友会賞費	82,451
		功労賞費	167,630
		会議費	0
		会長交際費	42,995
		予備費	0
		次年度繰越金	22,274,677
合計	23,954,074	合計	23,954,074

平成20年度 校友会収支決算書(特別会計の部)

奨学金特別会計

収入の部 合計金額 35,394,147 円
 支出の部 合計金額 35,394,147 円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	2,455,208	奨学金貸付金	2,939,000
奨学金返金	2,589,847	貸付繰越金	22,423,847
一般会計から	0	通信費	10,000
預金利息	25,254	次年度繰越金	2,121,300
貸付繰越金	22,423,847	奨学基金	7,900,000
奨学基金	7,900,000		
合計	35,394,147	合計	35,394,147

学園あれこれ

知らないところで、みんなこんなことしている。
その様子を、天使がやさしく見守っている。

天使にすがり、癒され、励まされ、はたまた見放され。

我が心の天使はいずこにおわす。

静かな職員室で一人騒がしい小林先生は卓球部の顧問、実力のほどは知らないが、学生達はいつも好成績を挙げる。

お決まりの記念撮影では、必ず選手達の前で一番大きな顔して写っている。

嗅覚の鋭さは天下一品。先輩の先生がある研修会に参加すると聞いて、「それ僕が行きますうー」と言つて横取つてしまつた。

そんなこんなで忙しい中、いくら独身で元気があつても、たまには休養も必要と有給休暇を申請したが、書類には育児休暇と記入し、怒られていた。

「有休」と「育休」は似て非なり。

ここにも騒がしい人がいる。世間では新型インフルエンザで大変だが、この人が、より強力なウィルスを撒き散らす「絶口調男」の根岸先生だ。

そのウィルスはインフルエンザよりタチが悪く、空気感染というよりは音声感染で耳から侵入し、症状は強烈なサムケを引き起し、やる気を無くさせ、倦怠感という後遺症が残るらしい。

人はそのウィルスのことを「ダジャレウィルス」と呼び、ワクチンは無い。

ただただ根岸先生の接近に恐れ慄く自然治癒（彼が遠ざかっていくこと）を待つしかないのだが、後遺症対策には

ミニ観葉植物がいらしい。西先生が効能に気付き、鈴木（由）先生や朝倉先生

へと対策の輪は広がっている。こちらの感染はエコロジイで人に優しく、癒し効果抜群だ。

他にも、今や懐かしい一眼レフカメラを手に入れ、写真撮影に没頭している趣味人の中島先生や、キーワード検定を学生と一緒に受験しようという職員が勉強中とのことであるが、後遺症に負けず頑張つてほしい。

同じ音声感染でも、昔我部先生は聴く人たちに感動をもたらず、バンド暦10年のビジュアル系のミュージシャンだ。

5つのバンドを掛持ちし、「オジサンバンドコンテバル」というコンテストに出たり、若者に人気のある今池のライブハウス「ポトムライン」でライブを行ったり、大忙しだ。

元氣なおジサンはここにもいる。森下先生には趣味の一つにスケートがある。

愛用のスケート靴で氷上を颯爽と滑る。スケート靴は購入してから、そろそろ30年。最新の高機能モデルが欲しくてたまらない。値段は8万円ほど。奥様に「買ってえー、買ってえー、みんな持つてるんだからさあ」と言つてねだるが、お許しは出ない。みんな持つているとい

うが、そのみんなって誰のこと？

なんと、石黒（誠）先生と伊藤（史）先生のことだ。ただし、二人ともそんな高級な靴は持っていない。

石黒先生は、若いころはスキーで鳴らしたものだが、唯一の弱点は寒さに弱いこと。かわいい2人の娘さんにせがまれて、少し振りにやつてきたスキー場は

じめは一緒に楽しんでいたが、やがて子供の元氣さについて行けず、ロッジのストーフにしがみついて離れない。

まかせっきりの奥様に叱られても、ストーフ前の一等席を死守したらしい。

言訳は「インフルエンザになったらどうするの、学校に行けないじゃん」

新型インフルエンザは中高年は罹りにくいというが、村瀬先生が感染してしまった。どつや、罹患したお孫さんと濃厚接触が原因らしい。

因みに校内で、奥方との濃厚接触で感染したとの事例報告はまだ無い。

奥方といえば、池戸先生と眞野先生の奥様は看護師。感染リスクの高い職場で働いておられる。

そういえば、10年ほど前、眞野先生と松岡先生が10人近い新人ナースと一緒に、心臓外科医の講演を聴く機会があった。あの時は間違いなく「白衣の天使」に囲まれた気分だったと、今でも鼻息荒く、まるで昨日の事のように話してくれる。だが講演の内容は全く覚えていない。

6号館地下の倉庫に、のらネコの夫婦が住着き、子猫3匹が生まれた。

早速高須先生が「タバコの煙追出し作戦」で駆除に乗り出した。

虎穴に入らずんば、虎子を得ず。まずは2匹の身柄は確保したものの、残る1匹は決死の覚悟で抵抗した。

果敢にも小さな牙で親指に噛付き、針のような穴が開き、赤い血が点となって滲んでいる。

「雑菌に侵されたら大変」との周囲の言葉に、治療を受けるべく病院探し。

時は午後7時、近くの病院は診察終了。救急案内でやっと病院を確保。病院側では、「獣に襲われ腕に傷、出血」との情報に、看護師6名の万全の受け入れ態勢で待受ける。そこへ高須先生現る。

「ここを噛まれました。」と差し出す親指に、6人の天使は嘩然。黙つて自分の持ち場に戻つていった。

そして、そこには天使に見放された哀れな男が一人残されていた。

みんな真剣なんだけど、何故か滑稽なのは何故なのか……。

(優良可)

『電子工』超常現象

『電子工』超常現象

うれしいやら、びっくりするやら、来年度の入学生大幅増です。電気分野各科目共入学生増なのですが、中でも電気工学科は、大躍進です。昭和50年に設置以来2クラス以上のクラスで継続運営をしてきました。幻の5クラスの時代もありました。その後、学生数減少の時代となり、とうとう今年度1クラスになった矢先の「カムバック」です。これを維持できるように日夜頑張りたいと思います。

そしてまた、びっくりです。この厳しい不況の中、就職も好調でした。中部電力に5名、電気保安協会にも5名が決まり、J.R東海や名鉄、三菱重工業、ヤマハ発動機、出光興産、更には鳥羽水族館から清水建設までと、いろいろな業種の企業に内定者を出すことができました。電気の仕事ってどこにでもあります。あまり景気に左右されない仕事だからです。また、今年も電験三種合格者が27名で、在校生の取得者は59名となりました。これもご報告しておかないといけないのですが、今年もやってしまいました。体育祭において、1位から6位まで独自の電気分野の全方ラスが入賞してしまいました。入賞賞金独占です。優勝は、今年も電気工学科。各料対抗縄跳びでも

最高点を獲得してしまいました。

昨年もおんなじこと言ったような気がしますが「ほんとに申し訳ない」でもクラス対抗リレー決勝では6チーム出場できるところを電気以外の1チーム分を「開けておきました」なんて言い訳にもならないですよ。

さて、いつまでも浮かれている訳にはいきません。兜の緒をしつかりと締め、電気分野職員一同これまで同様、電気技術者の育成に励んでいくつもりです。(新デジシエンマン1)

『作りつけて実力向上』

ゲーム・CG分野はご存知の通り、ゲームのグラフィックやプログラム、CGアニメーションなどを生み出すクリエイターを育成しています。商業的なコンピュータゲームは1971年から登場し、当初はブラウン管に写る線と点で表現されていたものの、40年近い時間をかけ発展し、実写と見間違えるほどの映像を築き上げるようになりました。その高品質なゲームの世界を提供するために活躍するのがゲームクリエイターとなる訳で、画面狭きと暴れまわるキャラクターの裏には筆舌では語れないほどの努力が隠れています。そのゲームクリエイターを育成す

るため、ゲーム・CG分野では、オリジナル教材を用いた授業だけでなく、放課後には10を超えるゼミ授業を実施しています。また、クリエイターとしての体力作りには制作し続ける事が重要となるため、すべての実習室を毎日8時まで開放し、作品制作を続ける学生の指導を実施しています。教育体制は学内だけでおさまることなく、ゲーム会社と教育連携を実現しており、今年も、実際のゲーム開発に多くの学生を参加させることができました。

このよつな教育環境の中、ゲームCG分野の学生は、自分の力を向上させ、実力を証明する作品を作り続けます。そして、努力の結果が、業界への就職につながっていきます。今年も、株式会社ゲームリパブリックをはじめ、ゲーム・CG業界に人材を輩出しました。普段楽しんでいたゲームやTV番組に挿入されているCG映像の裏側にも、工学院出身者の努力が隠れている事を時々思い出していただけると幸いです。(トリプルクリック)

『飛行船が飛ぶ日』

今年の工学院では、体験入学のたびに飛行船が飛んでいます。飛行船といっても、大空に浮かび、遊覧飛行をしているわけではありません。教室内でごんごんまわりとラジコンの飛行船が飛んでいるのです。でも何故その飛行船が飛んでいるのか? IT業界では昨今『組み込みシステム開発』の知識・技術が必要であり、国

家試験にも出題されています。組み込みシステムとは、ひとこと言えば、マイコンによる制御システムのことです。これは、今やあらゆる家電製品や自動車などの生活必需品に組み込まれているほど重要なものになっています。しかしIT業界では、その組み込みシステムの開発ができる人材が不足しているのが現状です。

組み込みシステム開発では、限られた資源を有効に使い、目的を達成する必要があります。通常のコンピュータを使ったシステム開発とは、かなり開発スタイルが違つのです。そしてそれを体験できる教材として、情報学科では『マジカルスプーン』と名付けられた飛行船教材を導入しました。直訳すれば、『魔法のスプーン』。そう、スプーンを叩いてラジコン飛行船を飛ばす教材です。

飛行船には上昇下降用、右左旋回用のプロペラがついています。これを動かすためにC言語で書かれたプログラムを、マジカルボックスと呼ばれる基盤にあらかじめ組み込んでおきます。

そしてスプーンを叩く。その音をセンサーで拾い、その叩きパターンに応じ、マイコンで各プロペラを回して飛行船を



飛ばすという仕組みです。体験入学では、訪れた見学者にもスプーン叩きをやってもらいます。しかしこの飛行船、ヘリウムガスで浮かんでいるため、気温や湿度の影響を受けやすく、思いどおりに飛んでくれないこともあるのが玉にきず。「気まぐれ飛行船」という別名でも呼ばれています。

『電子デジタル家電分野の話題を三題』

今年度も、全5クラス共に、入学してから今日まで、ドロップアウトの学生数がゼロでした。年度末には、この数値で結果が出せそうです。

次に、『工事担任者A1・DD総論』の認定講座について。総務省の認定を受け、平成12年度から継続するこの講座も今年度で10年目。ほぼ6ヶ月間の勉強で情報通信技術者として是非とも欲しい価値ある資格が取得できるようになっています。まるで、夢のような話です。

平成21年度の電子情報学科2年生全員が、この資格を取得しました。今年度も電子情報学科1年生が、資格取得を目標に頑張っています。

最後に、昨年からの継承事項でもある就職内定状況です。10年に一度の大不況と言われ、就職活動は最悪と言われるほど厳しい社会情勢ですが、該当クラス進路決定率が、昨年と同様に目標とする年度内100%を達成できています。今年も勿論優良企業から多数の学生が内定をいただきました。

各クラス、それぞれがあと2〜3名の

未決定者を残すのみ。ゴールは目前だ！

(デジタル)

『意外なところで、卒業生の遭遇』

現在、本校の映像クリエイティブ科・サウンドライティング科では、イベント・映像制作に関する専門家を育成すべく、様々な外部のイベントに「学外支援実習」として、学生が現場に出かけ活躍しています。

それは、7月中旬の土・日・祝の3日間、名古屋市内の大学の敷地内で行われた愛知サマーセミナーという行事の中で出来事です。最終日は夏らしい良い天気、気持ちよく行事が進行していました。周りにある模擬店なども賑わっていました。学生は野外ステージでPA（音響拡声）と照明を担当していました。そこでは主にバンド演奏などの音楽イベントが行われていました。そのステージイベントの中に2010年（平成22年）10月に開催される「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」に関する紹介イベントがあり、社会人の方がボランティアやECO活動をバンド演奏の歌を通して訴えかけるといふものがありました。リハーサルの時、「本番よろしくお願います！あの……。」とやらその代表者の方は、学生が着ているスタッフジャンパーを見てか、名古屋工学院専門学校の関係者であることを察知され、「電波学園ですよ。私、その卒業生です！」「えー！そんなんですか？」「お見かけ40代後半の男性。さらにお話をお聞きする

と本科の前身の学科に在籍されていたこと。そして、そのバンドの中にもう一人実は私もなんですが……」なんと、同じバンドのメンバーに2人も本校の卒業生が（互いに今まで気づかなかつたらしい）いらつしたのです。そこで、母校談義が繰り広げられ、今後ともよろしくということでメールアドレスを交換しました。

そして、本番！。その活動の説明や歌などでそのイベントを盛り上げようという時、なんとなく雲行きが怪しくなり、まもなく雨がかなり強く降りだして残念ながら、イベントは途中で中止となつてしまいました。その後、こちらも機材を急いで撤収してしまいましたので、ご挨拶などもろくに出来ず、そのまま、お別れしてしまいました。数日後、そのバンドの方から丁寧なお礼のメールがあり、少しほっとしました。本科がこのような学外支援実習を行っている現場で、「本校の卒業生」に遭遇することはこれからもきつとあると思います。そのときは、どうぞ気軽にお声をおかけください。皆さんが卒業された学校の「頑張っている」現在の学生の姿を見てやってください。今後ともよろしくお願います。

『ロボット作って、』

資格とって、講演して』

ロボット・CADの分野では、一年中あれやこれやと忙しく走り回っています。専門学校は、技術を身に付け、資格を取って、社会に貢献する人材を育成すると

まず一つ。各種のロボット競技会に出場するために技術を磨いています。全国専門学校ロボット競技会自律型ハードウェア部門で2台のロボットが優勝、第3位という素晴らしい成績を収め、文部科学大臣賞を受賞しました。

予選通過8台のトーナメント方式での競技です。スタートスイッチをONしたら後はロボットの自律性に委ねるしかなく、フィールド上の障害物を押しだし、ロボットどうしのぶつかり合いもあるのです。準々決勝では工学院どうしの戦いとなり、双方一歩も譲らない白熱した試合展開に会場からも喚声が高まってきました。

もう一つ。資格取得においてもがんばっています。中でもこの資格取得に執念を燃やし、43の資格を有するツワモノがいます。高校1年の時、先輩から言われた一言「資格は今のうちに取れるだけ取っておいたほうがいい」で一念発起。本校に進学してからも、上級の資格にチャレンジし、第2級陸上無線技術士や第3級電気主任技術者、機械設計技術者3級、3次元CAD利用技術者2級など、幅広い分野に亘っています。

さらにもう一つ。CAD設計技術を高めようと、技術講習会に参加した学生が、その技術、参加報告書に高い評価を受けて、報告講演を行いました。高校生、専門学校生、大学生、企業の技術者など大勢の前で、堂々と発表し、社会に役立つ技術の紹介、技術者の育成に大いに貢献しました。勿論、講演はクラスメイト、先輩の学生も聴講しました。

(ロボ吉)

平成二年度

母校のおもなできごと

昨年は新型インフルエンザが流行し、多くの小中学校では学級閉鎖や学年閉鎖などの処置が取られました。本校では幸い閉鎖までには至りませんでした。本校が、マスクの着用と手洗い、うがいの励行には神経を使いました。流行と言え、21年の流行語大賞は「政権交代」、人が代われれば仕組みも変わる。さて、工学院の仕組みも変わったのか・・・？

6月13日(土) 寮對抗球技大会/毎年、寮生の親睦を図るために開かれるボート大会

優勝 木原大輔君(明治寮) 準優勝 森本健斗君(明治寮)



名古屋エースレーンにて

長野 松本、飯田、那覇、石垣、名護、宮古、富山、金沢、福井、長浜、沼津、静岡、浜松、高山、尾鷲

マイクログラフスクラシック競技 優勝 太田航佑(メカトロニクス研究科) 準優勝 大野駿介(メカトロニクス研究科)

7月9日(木) 学生会役員選挙/会長・榎藤英之(ゲームサイエンス科)副会長長・山内裕太(電気工学科)書記・森あかね(デジタル家電科)会計・長縄実希(専学科)

7月14日(火) 15日(水) 第一級陸上無線技術士試験 7月16日(木) 17日(金) 第一級陸上無線技術士試験

7月26日(日) 第一種電気工事士技能試験 7月27日(月)~31日(金) 前期末試験

7月31日(金) 昼間部・夜間部終業(夏期休暇) 8月1日(土) エネルギー管理士試験

8月24日(月) 夜間部始業 8月31日(月)~9月12日(土) 第一級陸上特殊無線技士講習会

9月5日(土) 第一種・第二種電気主任技術者試験(一次試験) 9月6日(日) 第三種電気主任技術者試験

9月6日(日) 第24回マイクログラフ入中部地区初級者大会(於・本校) /

9月13日(日) AV情報家電・生活家電エンジニア・アドバイザー試験 9月24日(木)~27日(日) 東京ゲームショウ出展

10月2日(金) CADアドミニストレータ認定試験 10月3日(土) 第一種電気工事士技能試験(筆記免除者)

10月4日(日) 第一種電気工事士筆記試験 10月10日(土) 東海地区保護者会(進級クラス)

10月13日(月) 蒼空のフロンティア

6月19日(金) 中部電気産業界英会就職相談会 6月21日(日) CAD利用技術者試験

- 4月10日(金) 第78回入学式
4月13日(月) 始業式
4月19日(日) 情報処理技術者試験
4月28日(火) 第1回昇人会
5月15日(金) 第1回・企業説明会
5月24日(日) 工事担任者試験
5月30日(土) 東海地区保護者会(卒業クラス)
6月4日(木) 第2回企業説明会
6月6日(土) 第一種電気工事士技能試験
6月7日(日) 第一種電気工事士筆記試験
6月7日(日) 映像音響処理技術者資格認定試験

6月27日(土) 校友会支部長総会
7月4日(土)~7月20日(月) 教育懇談会/県人会担当教員が各地区へ赴き保護者との面談を行った。(会場/

キャラクターデザインコンテスト2009
金賞

高木尚宏(CGクリエイティブ科)

10月18日(日) 情報処理技術者試験/
ネットワークスペシャリスト試験に1
名 情報セキュリティスペシャリスト試
験に3名 応用情報技術者試験に3名
基本情報技術者試験に31名 ITパスポ
ート試験に11名が合格した。

10月20日(火) 体育祭/今年も体育
祭日和 鶴舞競技場に学生達の歓声が響
きわたった。優勝は電気工學研究科(担
任:石原先生)



血沸き肉踊る(?)体育祭

10月24日(土) バンダイナムコゲー
ムス特別講演会「製作してみてはじめて
わかる。アニメとゲームは、似て非なる
もの」/(株)バンダイナムコゲームス
より稲垣浩文氏をお迎えし講演会を実
施。講演では、「ガンダムシリーズ」や

「エウレカセブン」「コードギアス」な
ど、氏が関わったメディアミックス作品
における苦労話や、最近のゲームのタイ
ゲット層の変化などをわかりやすく説
明していただいた。

10月24日(土) 25日(日) 学園祭/今
年で39回を迎えた名学祭。テーマは丸



名学祭を支えた学生会執行部役員(下)

10月25日(日) マイクロマウス中部
地区大会(於:本校)/マイクロマウス
クラシック競技 支部サーキット競技
ロボスプリント競技を実施
準優勝

太田航佑(メカトロニクス研究科)

10月30日(金) 第21回愛知県専修学
校各種学校連合会卓球大会出場
団体戦準優勝

澤田洋介(メカトロニクス研究科)

11月3日(火) 第23回全日本学生マ
イクロマウス大会(於:芝浦工業大学)

支部サーキット競技
優勝

大野俊介(メカトロニクス研究科)

準優勝

太田航佑(メカトロニクス研究科)

11月15日(日) 機械設計技術者試験

11月16日(月) 第11回いろいろな塗装
の日ポスターデザイン画コンテスト

優秀賞

高木尚宏(CGクリエイティブ科)



カラーでご覧いただけなかったのが残念

11月21日(土) 23日(月) マイクロ
マウス2009/つくば国際会議場

11月22日(日) 工事担任者試験

11月29日(日) 第一種・第二種電気
主任技術者試験(二次試験)

12月6日(日) 第一種電気工事士
技能試験

12月16日(水) 愛知デジタルコンテ
ンツコンテスト

社団法人愛知県専修学校各種学校連合
会会長賞

井上拓也(CGクリエイティブ科)

竹市圭太(CGクリエイティブ科)

田村雄輝(CGクリエイティブ科)

仲西俊樹(CGクリエイティブ科)

袴田里沙(CGクリエイティブ科)

山田智弘(CGクリエイティブ科)

12月23日(水) 第18回全国専門学校
ロボット競技会/大田区産業プラザ
自律型ロボットハードウェア部門
優勝/文部科学大臣賞を受賞

渥美透(メカトロニクス研究科)

西村渉(メカトロニクス研究科)

12月24日(木) 昼間部・夜間部終業
(冬期休暇)

1月12日(火) 昼間部・夜間部始業

1月15日(金) 第2回県人会

1月19日(火) 20日(水) 第一級陸
上無線技術士試験

1月21日(木) 22日(金) 第二級陸
上無線技術士試験

1月27日(水) 2月2日(火) 卒
業試験

2月5日(金) 12日(金) 進級試験

3月9日(火) 茶話会

3月10日(水) 卒業式

3月14日(日) AV情報家電・生活
家電エンジニア・アドバイザー試験

3月20日(土) 21日(日) 熱田の森
ロボット競技会

熱田の散歩道

＝七里の渡し＝

工學院1号館の正面玄関を出て国道1号線沿いを西に歩くと伝馬町の交差点がある。国道と南北を走る大津通りとの交差点だ。

手前の歩道橋を渡って、国道の南側に降り、今度は大津通りを南進、内田橋に向かつて歩く。明治寮や明治寮北館に住んでいた人にとっては「通いなれた道」といったところだろうか。

この伝馬町の交差点から一本南の道が旧東海道である。

そもそも熱田区はこの辺りは、宮の宿といつて、東海道五三次の江戸日本橋から数えて四一番目の宿場町であり、脇街道の美濃路や佐屋街道の分岐点ともなっていたので、天保十四年(一八四三年)のころは本陣二軒、脇本陣一軒そして旅籠屋は二四八軒を擁した東海道最大の宿場町として栄えていたといつ。

さて、東海道を越えてしばらく歩くと内田橋に出る。堀川にかかるこの橋の上を国道247号線が筋交いに跨いでいる。その内田橋北交差点の歩道橋を上がり西側へ渡る。途中、右に目をやると、幾重にも重なる建物の向いつに熱田神

宮の杜が見える。

歩道橋は、大津通りを跨ぎ、国道をくぐる格好になっている。

歩道橋を降りた堀川沿いのところ、つまり内田橋北側西の一角が公園になっており、ここが史跡「七里の渡し」である。

東海道は、ここ神戸(「うづ」)の浜から唯一の海路となり、当時の人々は桑名宿までの七里を三、四時間かけて渡ったとのこと。この渡しは城下町名古屋の玄関口でもあるので物資や人の行き交いが盛んであったらう。



往時の様子は、歌川広重が描いた浮世絵からもつかいがい知ることが出来る。

江戸時代の地図を見ると、名古屋城からまっすぐ南に伸びる本町通(現・国道19号線)はこの「渡し」に到り、その先は伊勢湾になっている。この地に立つて南を望めば、陽光にきらきら水面が輝く大海が広がり、そこかしこに白帆を張った大小さまざまな船を見ることができただらう。

しかし、すでに海は埋め立てられ、史跡公園として整備された現代では、訪れる人も少なく、復元された常夜灯が当時をしのぶ唯一の建造物であり、この地に立つて当時の賑わいを想像することは難しい。

この「七里の渡し公園」に隣接して、脇本陣としても利用されていた旅籠「伊勢久」(丹羽家住宅・市有形文化財)や、西へ五分ほど歩いた所の木之免町(きのめちよう)には、「熱田の魚市場」跡がある。

伊勢湾に面したこの木之免町や隣の大瀬子町(おおせこちよう)には魚市場ができ、毎日、朝と夕方の二回、たくさんの魚貝類が売買されていたといつ。尾張名所図絵には、大勢の人で賑わった魚市場の様子が描かれている。

木之免町をすぎ、国道1号線白鳥橋東交差点を右に折れると、前方に工學院1号館が見える。(零式)

伊勢湾台風から50年

昭和34年9月26日の夜に名古屋を襲った伊勢湾台風のことを、私が小学生だった頃に母が話してくれたことがある。

母は当時、南区柴田に住んでいた。木造平屋の小さな家だったそつだ。

その夜、暴風で軋む家の中で家族が心細い一夜を過ごしていた。と、そのとき「水が出たぞーっ」という声が聞こえた。暫くすると、自分が座っている畳が、ジワツと浮かび上がり、みるみるうちに水が染み出てきたそつだ。

父親(私の祖父)の指示で全員が押入れに上がり、そこから天井裏にのぼり、仰向けになって屋根を蹴破り外へでた。

母たちは、その後救援に来た舟に助けられて、近所のコンクリート製の建物に避難をしたが、貯木場から流出した無数の木材が押し寄せ、家屋を次々と壊していったといつ。

避難が遅ければ、自分たち家族もどうなっていたかも知れず、「おまえも、ここに居なかつたかも知れないねえ」と言われ、子供なりに伊勢湾台風の怖さを感じた。

七里の渡し公園には、伊勢湾台風のとときの最高浸水位置を示すポールが立っている。その高さ2.5メートル。台風の威力と水による被害の甚大さを現代に伝えている。(零式)

【特筆すべき学生】

最近の工学院で特筆する学生のコメントを挙げました。後輩の頑張りを讃えて下さい。

人生の決断

電気工学科 吉岡秀行君

電気工学科では、9月初旬に行われる第三種電気主任技術者試験（通称、電験三種）を目標に夏休み返上で補習を行っております。この試験は、電気設備の管理者になるためのものですが、電気業界では技術者の資質を測る物差しとしての位置づけがなされており、就職に対しては大きな力を発揮します。今年度も電気工学研究科においては、中部電力、電気保安協会、JR東海、名古屋鉄道、三菱重工、出光興産、清水建設等々、業種を問わず全員が内定しました。昨今の不況を考えるとよく健闘したと思います。

今回、紹介するのは吉岡秀行君です。山口県の香川高校の普通科出身です。家庭の事情で大学進学を断念することになりましたが、不況もあり就職にも就けませんでした。その後彼は家を離れ、日々不安な生活を送っていました。そして、離れ離れになっていた母の元に帰った時、思ったのです。これ

ではいけないと。そして、決心をしたのです。資格を取って、正社員になって働こうと。

入学後の彼は、一生懸命でした。新入生は、電験三種の二科目の取得のみを目指して勉強をします。四科目取得しないと免許を手に来ません。吉岡君は何も分からない他の教科を家に帰ってから一人で猛烈に勉強したのです。そして、入学後半年で見事に合格を手に入れたのです。入学後初めて電気の勉強を始めた者が半年間で合格すること今までありえませんでした。新しい一ページが開かれました。今彼は、次の目標である電気工事士の資格取得に向けて前進しています。また、新たな伝説を作るために…。



新たなチャレンジ
吉岡秀行君（香川高校出身）

五冠を達成

情報総合学科 太田祐司君

情報系の学生は、システムエンジニアとして必要なプログラミング、データベース、ネットワーク、セキュリティ技術や設計のノウハウを学んでいます。また技術を身に付けた証として、資格取得も目指しています。中でも、春・秋の年2回実施される情報処理技術者試験は最大の目標として位置づけられています。合格率はどの資格も低く、レベル2の基本情報技術者（35%）レベル3の応用情報技術者（20%）レベル4のネットワーク、データベース、セキュリティスペシャリスト（16%）情報セキュリティアドミニストラータ（16%）前後という厳しさです。

入学して、1年の秋に基本情報技術者に挑戦します。合格できれば、2年の春に応用情報技術者（旧ソフトウェア開発技術者）に、これに合格できれば2年の秋からレベル4の資格にチャレンジします。

情報総合学科の学生は、4年間で計7回の受験機会がありますが、レベル4の合格率が低いため、複数取得者は毎年出るとは限りません。愛知県内の専門学校生のレベル4合格者数は全国でトップクラスですが、それでも毎回数名しか受からない最難関な資格だからです。

情報総合学科4年に在籍する太田祐

司君は、この最難関といわれるレベル4の資格を複数取得しています。2年の秋にネットワークを合格、3年の秋に情報セキュリティアドミニストラータを合格、4年の秋に情報セキュリティスペシャリストを合格しています。5冠王です！

クラス内に、レベル4取得者は他にも4名いますが、複数取得者は彼だけです。クラスでは「エース君」というあだ名で呼ばれて親しまれています。努力派でこつこつ積み重ねて頂上に登りつめるタイプですから、周りも彼から大いに刺激を受けてきました。レベル4取得者がクラス内に5名も出てきたのは、彼の影響が大きいと言えます。

高度の資格を取得した彼らの今後の活躍が楽しみです。



五冠のエース
太田祐司君（向陽台高校出身）

『沖縄支部近況報告』

校友会沖縄支部担当 堀内 豊

「昭和46年に校友会沖縄支部が発足し、33年の年月が過ぎようとしている。」という書き出しは、かもめ第45号のこの頁に書いた私の書き出し。

あれから6年の年月が過ぎ、支部発足40年まであと1年となった。沖縄県出身の卒業生の数も70名を超え、社会の第一線で活躍している。

私は、前任者の中村勝夫先生の後を引き継ぎ約10年間、沖縄県人会および校友会沖縄支部担当に加え、新人生募集の高校訪問や在校生のUターン就職のための会社訪問を行って来た。

10年前に行った最初の業務は、2名の在校生をUターン就職させよという特命を受けての沖縄入り。お恥ずかしい話であるが、この時、生まれて初めて沖縄に行ったのである。電車のない沖縄に飛行機で行き、その乗り方、レンタカーの予約方法に加え、沖縄の北南もわからぬ状態での訪問である。勝手のわからないこ



の地で在校生の就職先開拓である。何とも頼りない話である。

何回か沖縄を訪れるようになり、高校の先生方、企業の方々、卒業生の皆さんと交友関係も広くなり、多くの方々とのコミュニケーションをはかることが出来るようになった。

特に卒業生との交流については支部総会の実施が重要で、上原支部長を始め沖縄支部役員の皆様にはとてもお世話になっている。

開催時期については、支部担当である私の出張業務に合わせて実施していただいていることもあり、不定期ながらも確実に毎年一回開催している。

不定期な実施のため出席いただける卒業生の数は20名程度と多くはないが、その集まりの席では卒業した学校の思い出を肴に夜遅くまで話は尽きることはなかった。

出席者の年代(卒業期)は、昭和40年代卒から平成までと幅広い年代層で、年が違っても話が通じ合うのは、「一人沖縄を出て、名古屋でホームシックにかかりながら生活した」という共通点があるからではないだろうか。

支部総会における報告事項として大切なことは、母校の近況報告である。先生は元気が？卒業した学科は？学生数は？等々、皆さんとても興味を持ち聞いてくれる。

また、支部の集まりは卒業生の動向調査や在校生のUターン就職に関する情報の手や卒業生による援助・協力を得るには格好の場である。出席いただい

いる卒業生には、会社社長や役職者、市議員など地元沖縄で活躍されてみる方も多く、的確な情報やアドバイスを頂戴しており、とても助かっている。O Bの皆さんには、この場をお借りして感謝申し上げます。

最後に、毎回出席してくれる卒業生の結婚報告が二件ある。稲嶺利由君(平成17年卒・担任 神谷裕之先生)が9月21日に、具志堅陽平君(平成19年卒・担任 石原 昭先生)が2月11日に結婚。二人とも新聞奨学生として本校に入学。稲嶺君は4年間、具志堅君は3年間を新聞業務やりながら本校を卒業し、地元の優良企業に就職。心よりお祝い申し上げます。沖縄担当となり2件続けて、結婚式に出席させていただいた。おめでとう。未永くお幸せに



編集後記

「鬼平犯科帳」を存知だろうか。故池波正太郎氏による時代小説だが、執筆半ばで作者が他界したため第24巻に掲載されている「誘拐」が未完のまま終わっている。

この小説は、テレビでも放映されたので、ご存知の方も多いのではないだろうか。

火付盗賊改メ方長官の長谷川平蔵は、実在の人物であり、小説では、清濁併せ呑む度量を持った人物として描かれている。

小説との出会いは、作者との出会いでもあり、登場する様々な人物との出会いでもある。私は、「鬼平犯科帳」を通して長谷川平蔵という江戸時代の人物と出会うことができた。その平蔵の言葉「人間というやつ、遊びながらはたらく生きものさ。善事をおこないつつ、知らぬうちに悪事をやつてのける。悪事をはたらきつつ、知らず識らず善事をたのしむ。これが人間たわさ」

池波小説の魅力は、人の心理を映す言葉の巧みさにあると思う。だからこそ、その言葉に読み手の心がくすぐられるのだ。

さて、昨年「かもめ」発刊から半世紀を迎え、今号から新たな半世紀に向けての一步を踏み出した。

ただ単に、母校での出来事を報告するだけのものではなく、「読み物」として魅力ある冊子に育てていきたいと思う。

(零式)